

地域期待の材料エネルギー学部スタート！

島根大学材料エネルギー学部（令和5年4月開設）

エネルギー課題を材料科学分野から理解し解決を目指すとともに、
県内産業にテクノロジープルのイノベーションを起こし、島根創生に貢献

▶養成する人材像

- ・世界的なエネルギー課題を俯瞰的に理解し、持続可能な社会の構築に材料分野から貢献できる高度専門人材
- ・材料工学とインフォマティクスの 知見スキルとの融合によりグローバルな視点から企業におけるイノベーションを創出し、デジタル化の推進や地域産業の振興に貢献できる人材

～教育の社会実装～

●教育の基本方針

- ・アントレプレナーシップ教育を柱にデザイン力を養成
- ・4年間を通じてアントレプレナーシップ教育を実施（初年次生は全員履修）

●地域経済・企業ニーズを学びの場に

- ・企業の社員と教員が共同して授業を企画・実施
- ・長期インターンシップ、PBL

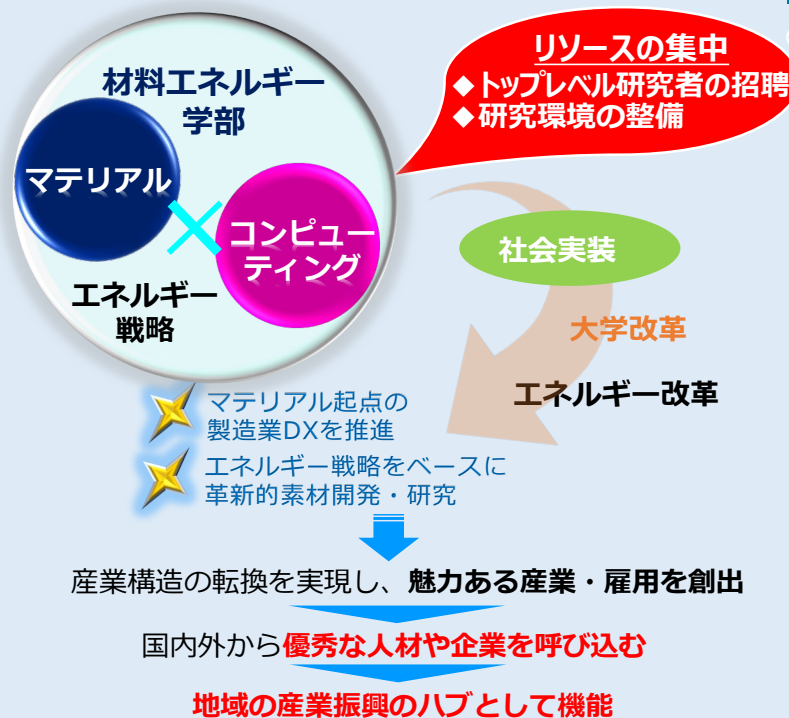
●実践的なグローバル教育

- ・海外大学との連携による授業
(Oxford大学、Cambridge大学、Helsinki大学等)

～研究の社会実装～

●ニーズオリエンテッドの研究を推進

- ・研究成果の社会実装をミッションに、エネルギー課題を解決する新素材・新材料開発を目指した共同研究を推進



新学部を起点とした未来構想

島根大学 ★ 地域の中核となる
オンリーワンの大学へ

- ✓ 教育・研究の社会実装を徹底し社会変革の原動力となる
- ✓ 産業変革を先導する地方発の先鋭モデルとして島根から世界へ発信
- ✓ 国内外から優秀な人材や企業を呼び込む

島根県

- ✓ 島根大学の高度専門人材や研究成果を最大限活用
- ✓ 産業構造の転換を実現し、魅力ある産業・雇用を創出
- ✓ 若者の流入・定着を実現し、社会増へ転換

地域期待の材料エネルギー学部スタート！

本件のポイント！

- ①初年度入試は県内比率・女子比率が高い水準に。
- ②材料エネルギー学部教育の中核となる「アントレプレナーシップ」始動。

①初年度入試は県内比率・女子比率が高い水準に。

令和5年度入試では、80名の定員に対して **86名**（私費外国人留学生1名を含む）が入学。

県内からの入学者の割合 **44.7%** ※

（参考）他学部を含めた、島根大学全体の令和5年度入学者の県内割合は26.7%

女子学生の割合 **25.9%** ※

（参考）「女子生徒等の理工系分野への進路選択における地域性についての調査研究」（令和3年度 内閣府委託調査三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社）によると、2021年度入学の大学生の分野別進路状況について、工学分野の入学者に占める女性比率の全国平均は15.2%

※私費外国人留学生を除いて算出した割合。

地域期待の材料エネルギー学部スタート！

②材料エネルギー学部教育の中核となる「アントレプレナーシップ」始動。

アントレプレナーシップ教育では、本学の研究成果・技術をどのようにしたら社会に活かす（社会実装する）ことができるのかを学生自らが考えていきます。授業では、材料エネルギー学部に関する8つのテーマによりグループを編成し、エネルギー問題などの社会課題に関心を持ち、材料の視点からその課題解決の糸口となるための技術を知り、その技術を活かした事業化構想を提案します。最終発表会では、企業や自治体からも参加をいただきます。

今後の予定

- 4月24日 DAY1 オリエンテーション
ーTask 1の準備
- 5月29日 DAY2 Task1（研究成果の活かし方）
のグループ発表とTask2の説明
ーTask 2の準備
- 7月10日 DAY3 Task2（顧客と悩みの特定）
のグループ発表とTask3の説明
ーTask3の準備
- 10月2日 DAY4 Task3（悩みの解決法を製品・サービスに落とし込む（設計））
のグループ発表と Task4の説明
ーTask4の準備
- 11月13日 DAY5 Task4（製品・サービスの立ち上げ方と想定売上の見通し）
のグループ発表とTask5の説明
ーTask5の準備
- 1月15日 DAY6 Task5(最終発表会) …学生自らが考えたビジネスプランを発表。
企業や自治体の方にもお越しいただく予定



初回授業の様子

東京大学から産学協創推進本部
宮脇守ディレクターを客員教授として招聘。



宮脇守先生